

巻頭言

地域の課題解決を世界へとひらく

芸術文化観光専門職大学

学長 平田オリザ



©T. Aoki

Towards a Global Approach to Solving Regional Issues

HIRATA Oriza,

President, Professional College of Arts and Tourism

芸術文化観光専門職大学は、兵庫県北・但馬地域16万人の住民の悲願として2021年4月、兵庫県豊岡市に開学しました。

面積2000平方キロを越え、東京都に匹敵する広がりを持つこの地方に、これまで4年制大学が一つもありませんでした。18歳の7割は市外、県外に出て行く状況が、いまも長く続いています。豊岡市を例にとるなら、昨年(2021年度)、生まれてくる子どもの数はついに年間500人を切りました。そのうちの7割が外に出て行くということは、市内の19歳人口は150人程度(実際には周辺自治体からの流入が若干ありますが、それは但馬全域から豊岡が人口を吸い上げてしまっていることも意味します)しかないということになります。そこに毎年80数名の若い活気のある人材が全国からやってくる。この人口インパクトは、思っていた以上に大きいものでした。町の方たちからは「風景が変わった」という声をよく聞きます。

本学は、コンテンツや参加体験を重視する文化観光の中でも、特に日本が弱いとされる芸術文化分野の観光(芸術文化観光)の専門人材を育成することを最大のミッションとしています。それは日本の観光業界にとって喫緊の課題であると同時に、但馬地方にとっても大きな課題、そして希望でもあります。城崎温泉、湯村温泉、神鍋高原、竹田城など様々な観光地を抱える但馬が、国際的なリゾートに脱皮していくためには、昼のスポーツと夜のアートは必須の条件です。私たちは、その成長の中核を担う人材を輩出していきたいと願っています。

このように本学は、日本、あるいは世界の観光学やアートマネジメント分野が抱える本質的な課題と、地域の課題が密接にリンクする形で開学しました。当然、そこにおける研究は、地域課題と密着しながら、普遍性を持つという二つの側面を満足させるものとなるでしょう。

また教育と研究の両立も、本学のこのような主旨から言えば、当然のように達成が期待されるどころです。実際に、今回の創刊号においても、原著論文の他に多くの研究ノート、活動報告が寄せられ、本学の個性を前面に打ち出した構成となったことは喜ばしい限りです。

今般の開学記念創刊号の発刊にあたってご尽力いただいたすべての皆様に感謝します。

個別の事例を、誰もが応用できる「理論」へと高めていくことが学問の一つの役割であるとするなら、但馬の事例を、日本、そして世界に通用する理論へと極めていく私たち大学人の役割はきわめて重要です。今後とも地域の期待に応え、世界に向けて発信できる大学を目指して進んでいきたいと思えます。